

第4回京都市下京区西部エリア活性化将来構想策定委員会 議事録

《日時》

平成26年12月19日（金）午前9時30分～午前11時30分

《場所》

メルパルク京都 研修室3・4

《出席者》

別紙一覧表参照

《議事録》

1. 開会

－省略－（欠席：杉本委員）

2. 議題

◆土井委員長

皆様、おはようございます。

最初に本日の審議の進め方について、事務局から説明願いたい。

◆事務局

まず、J Rの新駅に関する現在の状況、また将来構想（案）のパブリックコメントについて御説明させていただく。

大内自治連合会、七条自治連合会、梅小路活性化委員会、京都商工会議所から強い御要望をいただいていた七条通付近におけるJ Rの新駅設置について、その実現に向け、現在本市とJ R西日本とで共同で検討を進めているところである。結論までにはもう少し時間を要する状況となっているので、御了承いただきたい。また、この件については前回の委員会で、将来構想の中に、J R新駅の設置を強力に推進するという姿勢を明確に打ち出してはどうかといった御意見もいただいた。今回お示しする将来構想（案）は、J R新駅が設置された場合にどんな効果が期待されるかという観点も含めて、取りまとめている。

本日の審議において頂戴する委員の皆様の御意見を踏まえて、この将来構想（案）を確定させていただいた後には、パブリックコメントを実施したいと考えている。

◆土井委員長

それでは、議題を進めていきたい。本日の議題は2つあり、1点目が「京都駅西部エリア活性化将来構想（案）」についてである。内容について、事務局から説明いただいた後、2点目の「意見交換」に入りたいと思う。

【資料説明】－省略－

◆土井委員長

前回までの議論を反映した箇所の中で、特に注目していただきたいのは、「策定の考え方」の「すべての地域主体が将来ビジョンを共有し、民間活力と京都市の施策を融合させる」という点である。これは、京都市だけで本エリア活性化の事業を推進するのではないということを示している。

例えば、方策7「新たな地域資源の創出と歴史・文化資源の継承」において、マップを作る話が出ている。市の予算が出るあいだは良いが、この取組をきちんと継承していくためには、地域の人たちと協働して作っていかないと、続かない可能性がある。また、市の予算で作る場合、特定の店をとりあげて情報を掲載することは難しいので、地域の人たちと一緒に取り組むことによって初めて、マップの魅力を向上させていくことが可能になる。そういうことも含めて、地域の人たちがビジョンを共有して力を合わせていく仕組みをつくっていくことが、大事なことだ。

将来構想の進捗管理においても、地域の皆様が、自分たちの地域をどうしていったらよいかをお互いに確認し合って、それぞれ力を注いでいただく、あるいは、より魅力のある地域にしていくために議論していただくということが必要になってくる。また、構想実現に向け、具体的な指標を提示していくことも大事である。

それでは、意見交換に入りたいと思う。

まずは、途中退席される内田委員、荒川委員の順に御発言いただきたい。

◆内田委員

非常にうまく取りまとめていただいていると感じている。

まず、仕組み1－取組②の「小さな回遊」について、梅小路公園内のチンチン電車の走行距離が、現状、とても中途半端だと思うので、延伸して公園を1周させることを検討していただければ、更に子供たちが喜ぶと思う。

また、方策3「京都・日本の食文化の牽引」について、現在第一市場で行っている様々なイベントが、施設整備に際して実施できなくなる可能性が高いので、その間は、同様のイベントを梅小路公園で実施できると良いと思っている。そのためにも、排水管等を常設するなど、イベントがいつでも簡単にできる設備を梅小路公園に備えてほしい。

第一市場施設整備に伴う「賑わいエリア」については、現在、七条通側のみが議論の対象となっているが、五条通側の賑わいについても考える必要がある。この際、本委員会から、市場に何をしてほしいのかもっと発信してはどうか。

最後に、方策8「低・未利用地の戦略的活用の促進」について、我々も周辺に土地等を保有しており、それらをどのように使えばよいかを教えてほしい。整備後の運用が難しいので、例えば、市などが何年か借り上げて使ってもらえるのであれば、こちらも喜んで協力できる。

◆荒川委員

細かいところまで丁寧に拾ってまとめていただいているというのが、将来構想（案）に対する第一印象である。将来ビジョンに加え、具体的な施策も提示されている。

そのうえで、一つ一つの推進項目について、どの主体がベースになってリードしていくのかというところまで踏み込んで、例えばKRP、NPO、市など、場合によっては産官民学も含めて、主体のイメージを示すことができれば、さらに良いと思う。

PDCA サイクルについても、それを皆に見える形で行わなくてはならない。一つ一つの推進項目にそれぞれ小さいチェック項目があって、各主体がそのチェック項目をきちんと確認しながら、毎年積み上げていくという意識をまず持つ必要があると思う。商店街の皆様にとっては、どれだけ多くの人が来て、どれだけ地域にお金を落としていただき、売上が上がったか、というのが非常に分かりやすい指標になると思うし、梅小路公園の利用者数がどれだけ増えたのかということも指標になると思う。自分たちで確認できる小さな指標がたくさんあると思うので、それを確認しながら、次に繋いでいくことが大切である。5年後、10年後の達成に向けて、全体的な管理の仕組みをしっかりと構築しなくてはならない。

最後に、仕組み1－取組②の「小さな回遊」に関して、最近、外国人観光客の間で京都市内を自転車で回る通訳付きのミニツアーが流行っているようだが、本エリアは、「食」「遊び」「学び」とあらゆる要素が揃っており、まさにそうしたツアーにぴったりの場所だと思う。国内外の観光客に本エリア内を見て回ってもらう仕組みとして、自転車は有効だと思う。

◆東委員

将来構想（案）にはすべてが書かれていて、非常によくまとまっていると思う。

まず、事業を推進していくための母体をどう設けるかという点が非常に重要で、かつ難しいことであると思う。エリアマネジメント組織については、既に色々な事例がある。全国の成功事例を参考に、「こんな組織を作りたい」という本エリアのエリアマネジメント組織の具体的なイメージを構想の中に盛り込んでどうか。

また、全国的にインバウンドに取り組む流れがあるなかで、この構想においては、その観点が非常に少ないと感じる。2020年の東京オリンピックに向けて、これからインバウンドの取組を具体的にどうしていくのかということが、どこの企業、自治体等でも大きな課題になると思う。従って、本構想においてもその点を強調し、イメージをはっきりさせてはどうか。

最後に、進捗管理について、今回提示された「指標」は、まちづくりの最終局面に至るまでその変化が見えにくいものであるという印象を受けた。途中段階で確認できる、もう少し細かいレベルの段階の指標が必要であるように思う。

◆事務局

インバウンドは確かに重要な観点であり、「食文化」や「歴史・文化」等、盛り込める項目はたくさんあるので、その中でもっと打ち出していきたい。指標について、今回お示しした案は、アウトカム指標になっているが、最終的には各主体の行動指標に落とし込んでいかなくてはならない。本ビジョン策定後、地域で事業を具体化していく中で、指標も具体化されていくことになると思う。

◆土井委員長

東委員から、エリアマネジメント組織のお話があったが、寄合のようなボランティア組織ではなく、実際に事業を手掛けることができる、財政的にもしっかりした組織をつくらなければ、具体的な活性化の動きを生み出すことは難しい。他事例を踏まえて、エリアマネジメント組織のつくり方についても構想の中で踏み込んで書くことができるとよい。

インバウンドについては、島原等にポテンシャルを感じている。京都の中でも他の地域にはない、

本エリアならではの要素を外国人観光客にうまくPRし、足を運んでもらって、食事してもらえるとよい。現状は、そのあたりにミスマッチがあるのかもしれない、今後、それをどう埋めていくかを検討していく必要があるだろう。

◆東委員

寄り合いで意見だけを言うのではなく、実際に予算を組んで事業を進めている組織もあるようなので、そのくらいのレベルを目指せると良い。

◆池本委員

第一市場の賑わいエリアについては、市場機能を確保したうえで、余った用地を使ってもらえばよい。

本将来構想の対象エリアの中で考えたとき、東の方にはヨドバシカメラの地下ぐらいいしか食料品店はなく、食に関する機能は西の方に偏っているという印象がある。食は消費者が日々必要とするものなので、本エリアで食のウェイトを高めることができれば、もう少し大きな賑わいができるのではないかな。

第一市場において食に関するイベント等を実施しているが、あくまで単発的なものであって、日常的なものではない。食に関しては、やはり七条通沿いの商店街などにももう少し意欲的に取り組んでいただき、賑わいエリアとうまく連携して相乗効果を得られればと思う。

また、外国人観光客に対し、東・西本願寺や東寺といった歴史・文化資源、食文化など、本エリアのPRをもっと積極的に行う必要がある。

◆事務局

賑わいエリアの整備については、市場機能の拡充と施設整備に支障をきたさないことが大前提となる。賑わいエリアは、活性化の大きなポイントになると思うので、市場関係者の皆様としっかり協議して進めていきたい。

◆市村委員

商店街に対する厳しい意見をいただいた。今回、この構想（案）を読み、早く商店街も活性化のスタートラインに立ちたいと実感した。構想の取組を具体化していくためには、商店街としても、本エリア全体の活性化の動きに呼応し、ともに取り組めるよう、力をつけねばならない。他の商店街組合の会長とも認識を共有していく。

また、将来構想を具体化するための運営組織を早く確立していただきたい。行政側の組織と、我々地域側の組織とで、このエリアの活性化のためにどう取り組んでいくのか、構想を本当に意味のあるものにするためにも、しっかりとコミュニケーションを図る必要があると思う。

◆土井委員長

本将来構想の推進を担うエリアマネジメント組織については、京都市ではなく、地域の方々が主導して立ち上げ、運営していくものになると思う。ぜひ、そのような、主体的な関わり方のイメージをお持ちいただければと思う。

◆新山委員

策定の考え方の中に、「すべての地域主体が将来ビジョンを共有し」という文言を盛り込んだのは、良い視点である。また、具体の取組の中でも、「交通戦略」と「まちづくり」という 2 つの仕組みを前面に出し、そこに地域力・市民力を押し出した点も、良いと思う。

方策 1「緑やうるおいを感じられるまちなか居住の推進」について、今の案では、ハード面の環境整備に力点が置かれているが、大切なのは、衣食住の生活機能を地域内で充足できることだと思う。暮らしやすい地域とは、商店街などの個人商店が活性化し、地域で買い回りができることであり、暮らすうえで必要な機能が地域で調達できることの重要さに言及していただきたい。

来訪者の呼び込みやおもてなしも大切だと思うが、まずは、地域に暮らす人たちの生活の質が充実しているということが第一であり、それがあってはじめて地域の魅力が生まれ、外から人を呼び込む力もできてくるものだと思う。ぜひその点を重視してほしい。

◆土井委員長

地域住民の視点からのアプローチも重要であるとの御指摘をいただいた。

◆新山委員

個人商店が店を閉めると、「薬局がなくなる」「電球が買えない」といった目に見える現象に伴って、その店が地域社会の中で担っていた機能の流出も生じるのだが、その点について議論されることは少ない。電気製品を例に挙げると、ただ単に安く買えればよいという話ではなく、特に高齢者などは、後々のメンテナンスも含めて個人商店を頼っている部分があるので、店がなくなると、日々の暮らしに大きく影響する。そういったイメージを、構想の中で何らかの形で発信できないか。

◆土井委員長

新山委員御指摘の点は、例えば、「この方策を掲げるに至ったエピソード」などといった形で盛り込んでも良いかもしれない。個人商店の閉店によって、電球の交換や自転車のパンク修理など、その店が担う機能が流出し、暮らしの質が低下する。こういった生活の質を高める仕組み、まちを支える仕組みを、これから先も個人商店で担い続けていくことができるかどうか。地域の人々による、別の仕組みを考える必要があろう。

◆新山委員

どうアプローチするかについて、私も今現在答えを持っているわけではないが、まずは構想の中で、こうしたことを課題と捉え、探求していく旨を明記するところから始まるのではないか。そのうえで、個人商店を元気にすれば課題は解決するのか、あるいは、もっと別の仕組みが必要なのか、それを研究するタスクグループがあっても良いと思う。

◆本政委員

他の委員の皆様から商店街に対して様々な指摘をいただいたが、七条通沿いの商店街は火が消えたような状況であり、先頭に立つ人材もないのが現状である。

共働きで生計を維持する家庭が多くなるなかで、日中に商店街を買いまわるゆとりはなく、商店街の必要性は薄れてきた。そのようななかで、いくら商店街にお金を投入しても、昔のような姿には戻ることにはできない。例えば、商店街の中に、各商店が品物を持ちこんで販売する小型スーパーのような拠点を作るなど、地域のニーズに応える特別な工夫が必要である。

また、商店街の活性化は、商店街だけの力では無理で、行政の介入・支援が必要であると思う。空き店舗もシャッターを外して、昔らしい面影を出していくことが大事である。

◆池本委員

買い物難民を救うためにも、地域に商店街は必要である。その活性化に向け、各商店主の意識改革と、それをまとめ、引っ張るリーダーの存在が大事である。

◆市村委員

今の商店主は皆弱っていて、自分の店を維持するので精一杯である。外部からの力の注入も必要であるように思う。

◆西村委員

本エリアは、居住環境が向上し、良いまちになってきている。七条通は、歩道と自転車道の分離工事が進み、非常に快適になった。「歩くまち・京都」の姿がこのエリアに具体化されたと感じている。来訪者がぶらぶらとエリアの中を歩きたくなるようなまちづくりが大切である。

また、最近では新たに 50 戸の住民の方から、町内会に加入させてほしいという話があった。町内会側としても快く受け入れ、現在、調和のとれた地域活動ができている。このように、住みやすいまちであることから、新しい住民の方がどんどん増えている今、やはり商店街の活性化が必要不可欠である。特徴ある品揃えやサービスで、働き盛りの若い世帯をはじめとする地域住民の利用を増やしていかなければならない

商店街と地域住民との会合でも、商店街に対する様々な厳しい指摘を住民からいただいたが、それらに誠意をもって応え、「地域密着」を図ることが、商店街として大事なことであると考える。

◆大濱委員

2 つの仕組み・8 つの方策の中に、本エリアの活性化に向け必要なことがほぼ全て盛り込まれているが、今後、それらをどう実行していくのが大事である。エリアマネジメント組織について、財源や担い手を明らかにし、その活動がどう地域の活性化に結びついていくのか、具体的な姿を発信することで、参加したいと思う若い世代も増えるのではないかと。「担い手」という点においては、地域の子育て中の女性（ママ）の力も活用できると思う。

方策 3－推進項目 3 「食」に関するイベントの開催について、現在、市場で「食彩市」等を実施されているが、それらと商店街の取組が一致していない印象を受ける。せっかくのイベントがうまく地域に繋がっていないと思うので、もっと話し合い、連携を深める必要があると思う。

また、インバウンドについて、最近レンタサイクルを利用する外国人の方が増えているので、日本の自転車マナーを知ってもらうような取組も必要ではないか。

以前、商店街に市民団体の活動のポスター掲示を依頼した際、どこそこの公認をもらっていない

と協力できないと断られたことがある。地域で活動しようとしている小さな団体にとっては、どこにどんな許可を取れば、広報上の協力等を得られるのかというのが分かりづらいのが現状である。気軽に相談できるサポート窓口などがあると、活動の広がりにつながると思う。

梅小路公園のチンチン電車については、公園全体をぐるっと回れるくらいあると、広い園内の移動手段にもなって良いと思う。

◆池本委員

市場で実施している「食彩市」は、魚食普及、つまり、小売店やスーパーで買い物をしていただくため、魚の良さを広め・伝えることを目的とするものである。このイベントをきっかけとして、商店街と連携したいという思いを市場の側では有しているが、残念ながら、近隣商店街の魚屋が大きく数を減らしてしまったこともあり、商店街と市場との連携については、現在のようになっていることを御理解いただければ幸いである。

◆川原委員

例えば、どこに行っても、季節問わずおいしいものを食べられたらそれでいい、機能ばかり追求すればいいというわけではない。利便性の追求だけではなく、情緒を感じられるまちづくりが必要である。東京からの新幹線代がかかっても、お金に替えられない素晴らしいものが京都、あるいは本エリアにあるということが伝わるようなまちづくりやPRを展開する必要があると思う。

また、以前、フェイスブックで本委員会に参加していることを発信したら、思っていた以上の反応があり、こまめに情報を発信することで、人々の話題に上り、興味を持ってもらえるのだと改めて感じた。かつて「未来の担い手・若者会議 U35」の委員であったとき、パブコメくんという市民意見募集に関するキャラクターを作成し、開かれたイメージづくりに努めていたが、こうした取組を進めていることがまず知られなければ意味がないので、決まったことを報告するだけではなく、今どのような課題があるかも含めて、もっと情報を発信していかなければならないと思った。そういう意味で、地元放送局の役割もまだまだあると感じている。

◆小西委員

3点ほど意見を申し上げたい。まず1点、エリアマネジメント組織について、これは今後の運営のキーポイントになるかと思う。地域コミュニティだけでは解決できない部分については、民間企業も含め、地域に根ざして活動している主体が、エリアマネジメント組織の中心になるべきである。今後は方策単位でプロジェクトチームをつくり、具体的施策を細かく分析していく作業に入っていけばよいのではないかな。

またKRPについては、現在ほぼ満床であり、今後は五条通側での開発を考えている。ポテンシャルの高い土地であり、大阪ガスグループとしては、五条通側に力点をおいた開発施策を展開していくことが、今後の役割だと認識している。そしてKRPとしても、企業誘致だけに留まらず、一歩進んだ産業を創造することで地域貢献していきたい。

あと1点、京都駅南口駅前広場の整備について、先日、商工会議所の委員会で初めて全体計画を聞いた。本エリアの入口であり、動線にも影響するので、本構想との整合性に留意して進めていくべきであると思う。

◆大島委員

構想（案）は皆の意見がよくまとめられている。その一方で、広大な面積にたくさんのコンテンツを有するエリアを対象とするこの構想は、多大なミッションを背負うことになると感じた次第である。その重責をエリアマネジメント組織に全て投げるわけにはいかないし、行政主導となるのも適切ではない。また、地元はより身近な課題を抱えているので、これらすべての主体となるのは難しいだろう。

先ほど、買い物弱者など身近な課題に対する解決策についての話題が挙がっていたが、大規模団地などでは、コミュニティ・ビジネスによって解決している事例がある。一定のまとまった規模があれば、そういう身近なニーズをコミュニティ・ビジネス、あるいはソーシャルビジネスとして解決していくということも可能だと思う。恐らく、こうした「身近な課題の解決」と「夢のある取組の展開」の両面を、エリアマネジメント組織が担っていくことになるのだろう。そうすると、「コーディネート」の領域を越えて、「キュレート（情報を収集・マッチングし、新たな価値を創造すること）」が、京都駅西部エリアでのエリアマネジメント組織の特徴になるのではないかと感じた。

もう1点、方策1－推進項目2「空き家等の活用・流通の促進」について、京都市では今年、まち再生・創造推進室を創設して空き家活用に精力的に取り組んでおり、その目玉となるモデルプロジェクトとして、島原の若者と商店街の方々がタッグを組んで新たな商業空間をつくっていく「糸でつながる33mのマーケット「itonowa」」というプロジェクトを採択している。この団体の取組をモデルにしながら、エリア内の他の場所で展開することも可能かと思う。そういう意味では、地域連携に加えて、市内部における庁内連携も大事になってくるのではないかな。

あと1点、質問だが、方策5と8に、これまでになかった「都市計画の見直し」という文言が出ているが、今、具体的な案件があるのだろうか。

◆事務局

この「都市計画の見直し」は、京都駅西部エリアに限定した話ではなく、京都市全体で特に拠点となる鉄道駅について、駅周辺の都市計画の見直しを検討し、より住みやすい駅周辺のまちづくりにつなげていこうとする市の施策に基づいたものである。本構想の対象エリア内では、JR丹波口駅周辺がその拠点の1つとして位置付けられており、いずれまた、機を見て、将来構想の内容と連携しながら必要な見直しを検討するという方向性が示されているため、将来構想にも記述を追加した。

◆土井委員長

他に何か御意見はないか。

◆本政委員

七条新駅について、委員会としてもうひと押し、何か具体的な行動ができないか。

◆土井委員長

新駅は大事な要素ではあるが、それも含めた構想全体をきちんと仕上げるのが、本委員会の重要なミッションであると思う。市長への答申の際に、新駅設置に向けた要望が強くあることを伝えることはできるだろう。

今後、皆様からいただいた御意見を踏まえ、私と事務局とで「将来構想（案）」を整理し、各委員に再度中身を御確認いただいたうえで、パブリックコメントにかけていくこととなる。2つの仕組みについて随分御議論いただいたので、この仕組みづくりにしっかりと取り組んでいかないと、事業が動かないということは、皆様に御認識いただけたと思う。

本日は特に、商店街の活性化について非常に議論が盛り上がった。この議論の盛り上がりを実際 of 取組にいかに繋げていくかが、極めて重要である。例えば、空き店舗対策に限らず、商店そのもののリノベーションもしていかななくてはならないだろう。

また、まちづくりに関心のある若い人は結構多いが、既存の自治会組織などとはなかなか接点がないことが多い。右京区の「まちづくりキャンパス@右京」では、若い人が集まって出てきたアイデアが具体化していくという例もあるので、ぜひ若い人をまちづくりに巻き込んでいく仕組みづくりに取り組んでほしい。地域の代表者ももちろん大事だが、そうでない人たちが担い手となってアイデアを出し合い、取組を進めていくことで、意外に面白いことが起こる可能性もある。

今までまちづくりに直接接点がなかった人たちに、できる限り声が届くようにしたい。パブリックコメントがそのスタートになると思う。将来構想（案）をなるべく多くの人たちに見てもらえるようにしなくてはならないし、ぜひ、委員の皆様にも、色々な場で話題にしていいただきたいと思う。

以上で本日予定していた議事はすべて終了した。

最後に、事務局から何か連絡事項等があれば、お話しいただきたい。

【資料説明（今後のスケジュールについて）】 ー省略ー

3. 閉会

◆事務局

次回委員会の進め方等については、土井委員長と相談したうえで、事前に皆様にお知らせしたいと考えている。

それでは、第4回将来構想策定委員会を、これで閉会とさせていただきます。

皆様どうもありがとうございました。

以上

京都市下京区西部エリア活性化将来構想策定委員会 出席者一覧

	氏 名	役 職 等
委員長	ど い つとむ 土井 勉	京都大学大学院工学研究科 特定教授
	あずま のりあき 東 憲昭	京都商工会議所 地域開発・都市整備委員会 副委員長 (京都駅ビル開発株式会社 代表取締役社長)
	あらかわ あけ み 荒川 朱美	京都造形芸術大学環境デザイン学科 教授
	いけもと しゅうぞう 池本 周三	京都市中央卸売市場協会 会長 (京都全魚類卸協同組合 理事長)
	いちむら まさる 市村 勝	梅小路活性化委員会 委員長
	うちだ たかし 内田 隆	京都市中央卸売市場協会 副会長 (京都青果合同株式会社 代表取締役社長)
	おおしま さちこ 大島 祥子	一級建築士事務所 スーク創生事務所 代表
	おおはま いく え 大濱 育恵	市民公募委員
	かわはら 川原 ちかよ	エフエム京都D J
	こにし まさゆき 小西 雅之	大阪ガス株式会社 常務執行役員 京滋地区総支配人
	にいやま ようこ 新山 陽子	京都大学大学院農学研究科 教授
	にしむら ためひこ 西村 為彦	七条学区自治連合会 会長
	ほんまさ かずよし 本政 和好	大内学区自治連合会 会長

《五十音順（委員長除く）、敬称略》